



2026年6月15日

各位

会社名 H a m e e 株式会社  
代表者名 代表取締役社長 水島育大  
(コード番号: 3134 東証スタンダード)  
問合せ先 経営企画部マネージャー 國井俊樹  
(TEL. 0465-25-0260)

### 通期業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

2025年12月15日付「2026年4月期第2四半期(中間期)決算短信〔日本基準〕(連結)」において公表した2026年4月期の連結業績予想値と本日発表の実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 2026年4月期の連結業績予想数値と実績値との差異 (2025年5月1日～2026年4月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 ( A )	21,673	723	479	152	9.33
実績値 ( B )	22,073	983	761	541	33.85
増減額 ( B - A )	400	260	282	389	
増減率 ( % )	1.8%	36.0%	58.9%	255.9%	
(ご参考) 前期連結実績 (2025年4月期)	22,895	2,354	2,352	1,278	80.15

#### (差異の理由)

当連結会計年度の連結業績は、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益のいずれにおいても、2025年12月15日付で公表した通期業績予想値を上回る結果となりました。なお、前期(2025年4月期)の連結業績には、前連結子会社でありましたNE株式会社(プラットフォーム事業)の通期損益が含まれておりましたが、同社は2025年11月1日付の株式の現物配当(株式分配型スピンオフ。同社株式は東京証券取引所グロース市場に上場)により当社の連結子会社ではなくなり、当連結会計年度の第3四半期より連結の範囲から除外されております。これにより、当連結会計年度の連結業績には同社(プラットフォームセグメント)の損益が中間期(第2四半期)までしか含まれていないため、上記の(ご参考)前期連結実績との比較においては、売上高および各段階利益が減少しておりますが、これは主として当該連結除外に伴う構造的な要因によるものであります。なお、継続する事業におきましても、特に好調であった前期からの反動に加え、米国における関税をはじめとする外部環境の影響等により減益となっております。一方、本お知らせにおける差異は、当該連結除外を織り込んだ上で2025年12月15日に公表した通期

業績予想値に対するものであります。主な要因は以下のとおりです。

(1) 売上高および営業利益

コマースセグメントにおいて、コスメティクス事業の国内における販売が拡大し、売上高が前回発表予想を上回りました。前期連結実績との比較におきましては、主として上記のNE株式会社の連結除外により、同社が属するプラットフォームセグメントの損益が中間期(第2四半期)までの計上にとどまったことから、売上高および営業利益は減少いたしました。もっとも、売上原価が商品評価損の減少等により改善したことに加え、広告宣伝費等への投資を継続する一方で本部費用を含む全社的な費用の管理に努めたこと、新規事業における損失が縮小したこと、ならびに海外子会社(Hamee Global Inc.)の業績も寄与したこと等により、営業利益は前回発表予想を上回る水準で着地いたしました。

(2) 経常利益

経常利益につきましては、前期連結実績との比較では、上記のNE株式会社の連結除外をはじめとする営業利益の減少に加え、持分法による投資損失が拡大したこと等により、減少いたしました。一方、前回発表予想との比較では、営業利益が予想を上回ったことにより、経常利益も前回発表予想を上回る水準で着地いたしました。

(3) 親会社株主に帰属する当期純利益

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、前期連結実績との比較では、上記の営業利益および経常利益の減少要因(NE株式会社の連結除外等)を反映し減少いたしました。一方、営業利益および経常利益が前回発表予想を上回って着地したことに加え、特別損失および税金費用等が当初想定を下回ったことにより、親会社株主に帰属する当期純利益は前回発表予想を大きく上回る水準で着地いたしました。

以上